文部省選定

優秀映画鑑賞会
推　薦

民俗芸能の心

新野（にいの）の雪祭り

——神々と里人たちの宴（うたげ）——

◀お下り

ビンザサラ▶

三河、信州、遠州の国境が接する、いわゆる三信遠の山里は、芸能の吹き溜りといわれ、古いしきたりを大切に伝えてきた祭が諸所に残っている。

この映画は、長野の県南の山ふところに位する町、下伊那郡阿南町新野に古くから伝えられている祭を記録したものである。

「新野泊りで1度はおいで、伊豆社まつりに盆踊り」これは新野における2大行事を表わした踊り唄であるが、周囲を山にかこまれたこの地は、外との交流も少く、盆地は盆地だけで生活する風習が生れた。このような風土に、個性豊かな民俗行事が育ったのは当然といえよう。祖先の代から長い歴史を経て育くまれてきた祭は、現在もこの地の住民の大きなエネルギーとして発動している。「何のために」より「やるこんだから、やるんだ」という心情的な返事が返ってくるほどに、深層の信仰の姿と、真から祭を好む気質とが、新野の生活の中に漂っていることを知らされるのである。

さて、祭の圧巻はなんといっても庭能と呼ばれる広庭の儀であろう。庭に大松明が立てられ、その明りの下でさまざまな仮面の舞がくりひろげられる。この祭の最大の特徴は、この素朴な仮面であり、これを被ると「神」になるのである。演じる者は一夜神で、激しく舞う姿は本当に神がのり移ったようである。この神々は、初春に里を訪れるマレビトで、あるいは村に1年間の祝福を与え、あるいは村の災を退ける精霊で、所作によって、呪言によって人々をことほいでいく。

数々の歌や踊りに、人々が生きるために芸能を求め、それを神と人とのつながりの中で展開させていった、いにしえの心がここにある。——神々と里人達の心の通い合い——この祭は、まさに現代人に失われつつある純粋・素朴な日本人の魂の原点を想い起させてくれるものだ。

祭りの沿革

- 室町時代応永の頃、十一面観音を本尊とする円通山二善寺があり、その鎮守に伊豆権現がまつられていた。
- 神主である伊東氏は伊豆の国の人で、生国の神である伊豆山権現を招来して伊豆神社と名づけられたと言われている。
- 奈良の春日神社から薪能を招いて祭りを行った。祭りの中の田楽は、戦国の頃の領主である関氏が伊勢の国から伝えたものだと言われており、これら田楽を主軸として延年、神楽、翁芸、狂言、田遊びなどの神事芸能をとり入れている。

◀競馬

神婆▶

新野の雪祭り

本　田　安　次

（元文化財保護審議会専門委員）

長野県下伊那郡阿南町新野の雪祭りは、日本の祭の中でも異色ある古風な祭である。長野・静岡・愛知の山間、天龍川の流域には、旧11月と正月に、各所に古色を帯びた祭が行われている。霜月祭・花祭などと呼ばれているのは、旧11月、湯立と称して釜に湯を沸かし、その湯を神々にささげ、参拝者たちにも振りかけて罪や穢れを払う清めの祭とされており、又、おこない、御神事、雪祭、田楽などとも呼ばれる正月の祭は、新たな年を迎えて、人々の息災を祈り、五穀の豊穣を願う祭であった。その双方に、面影の舞とも呼ばれる一種の古風な能が演ぜられ、祭をまことに色濃いものにしている。

新野の雪祭りは、1月1日の門開式にはじまる。越えて11日の早朝、伊豆神社の拝殿で神降しの儀があり、お面の舞の役を神籤で定め、すぐその稽古にかかる。13日はお滝入りとて附近の小さい滝で舞人たちが垢離をとることあり、のち諏訪神社拝殿で奉納の田楽があり、お面の彩色もある。14日が本祭。夕方行列は再び伊豆神社へと戻り、ここに夜通しの祭が行われる。

この祭はむしろ芸能を主にした祭と云ってよい。はじめ神楽殿で田楽その他の舞があり境内では氏子の正月飾りを集めて作った大松明を起すことあり、伽藍祭と云って荒神様を祭る式あり、拝殿で中啓の舞その他があり、大松明に火がつくと、人々は乱声々々と叫びつつ張屋の壁をしきりに叩いて舞を促す。こうして大松明の火の下で庭の舞となる。夜田楽・競馬・お牛・翁・松影・しょうじっきり・海道下り・神婆・天狗・八幡・鎮め・鍛治田遊びなど。ひしひしとせまる夜気、寒気の中に舞は進行する。いつかほのぼのと夜が明ける。人々は境内一ぱいにつめかけて、舞人たちを色々にはやす。

祭の歴史

- 江戸時代には御朱印五石を給わる。
- 明治初年、神仏分離で二善寺を廃し、伊豆神社となったが、変わりなく行事は続けられる。
- 大正12年に祭りの残り火から火災を出し、祭器・器具を失ったが、すぐ復元し、江戸時代の記録と何んら変りなく祭りは伝承された。
- 大正15年1月に伊豆神社へ参詣された国学院大学教授の折口信夫博士は、この祭りを日本芸能を語る上で貴重なものであることを広く全国に紹介し、祭りの中に雪を豊年の兆として大切に扱った作法のあることから、「雪祭り」と名づけられた。
- 昭和45年11月5日に文化財保護法施行20周年にあたり、文化功労団体として保存会が受賞した。
- 昭和52年5月17日に国の重要無形民俗文化財に指定された。

◀幸法（さいほう）

作　品　名：シリーズ〈民俗芸能の心〉
「新野（にいの）の雪祭り」
―神々と里人たちの宴（うたげ）―
（35㎜／カラー／30分）

企画製作：財団法人ポーラ伝統文化振興財団

製作協力：日本テレワーク株式会社

監　　修：本田安次

製作スタッフ：製作指導・高橋　秀雄　　製作担当・久米　義男
脚本・監督・阿部　博久　　録　　音・吉田　一明
撮　　影・古本　久之　　編　　集・阿部　博久
音　　響・山崎　　宏　　ナレーター・観世　栄夫

協　　力：文化庁文化財保護部
長野県教育委員会
長野県阿南町
伊豆神社雪祭り保存会

Pola Foundation for the Promotion of Traditional Japanese Culture
公益財団法人 ポーラ伝統文化振興財団
〒141-0031　東京都品川区西五反田2-2-10　ポーラ第2五反田ビル2階
TEL.03-3494-7653　FAX.03-3494-7597

,000 12.11